

新AI戦略の骨子検討に向けた ディスカッション・ペーパー（案）

令和3年12月17日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局



現状認識についての議論

観点	論点となる事項	検討の方向性
社会状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により社会的にも大きな変化が発生。過去の成功体験に基づく取組ではなく、新しい取組が必要。災害やパンデミックといった非日常はすでに現実のもの、又は差し迫ったものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略目標.0の具体化
関連技術の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会実装のフェーズにあるAI技術はすでにコモディティ化（容易に入手可能）。 ・ DXの対象は、サイバーとフィジカルの融合に移り変わってくる。日本はフィジカル（ものづくり等）の点では強みがあり、AIについてもハードウェアとの融合面等に着目した導入が効果的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強みとする分野の強化（例：ハードウェアとの融合、生命科学、ナノ、バイオ等） ・ XAIの研究開発促進
データの収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ データの狩猟時代から、データを収穫する持続的な仕組みの構築が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハーベスト・ループの形成
社会実装の阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIにより「人間を代替する」との意識が、AIの社会実装の阻害要因となっている（代替のためには完ぺきな水準のAIが必要となる。）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間とAIの協調
産業の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI導入への牽引役を担うのはスタートアップ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタートアップの活躍支援

「戦略目標.0」の具体化

将来的な危機を見越して、対応すべき事項

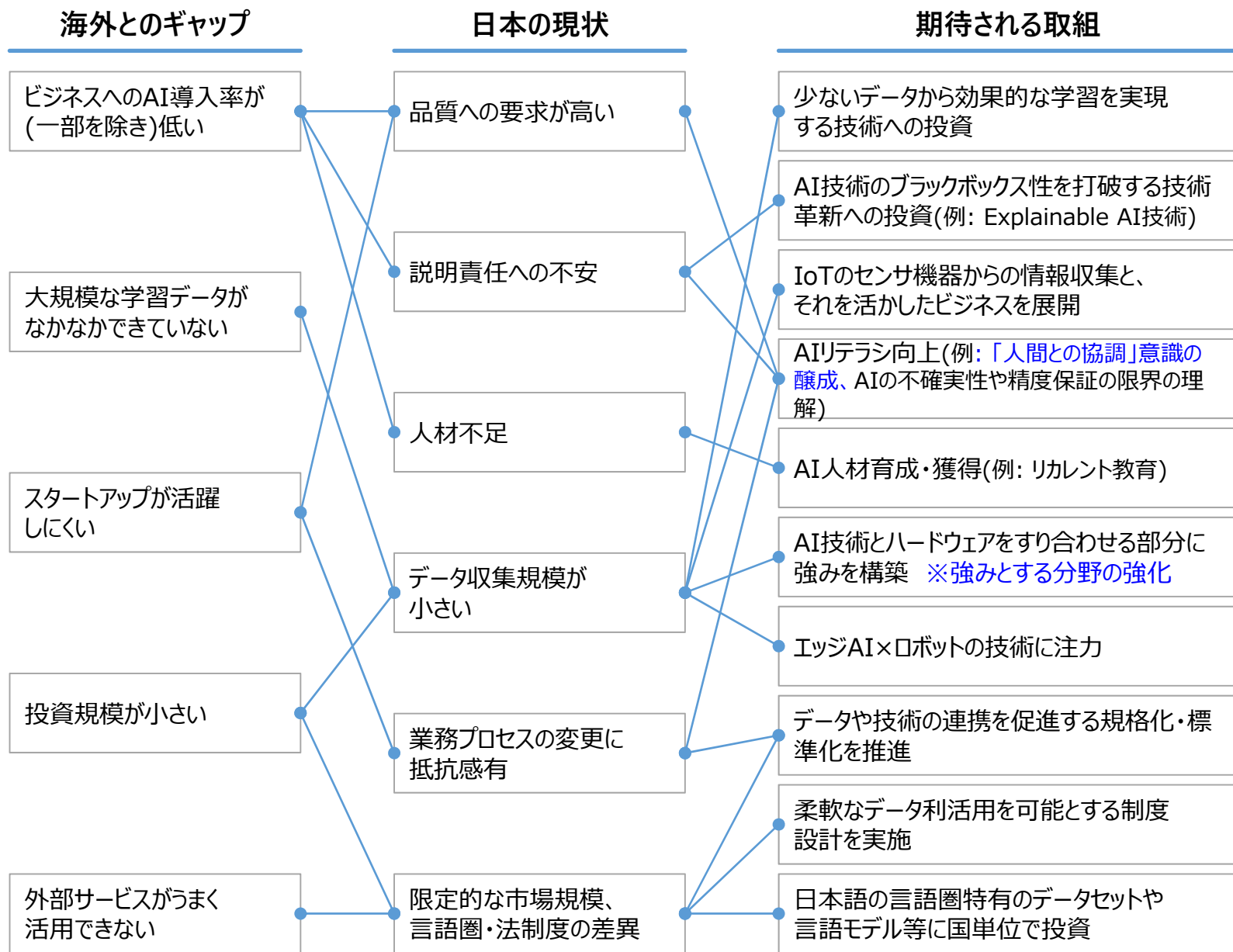
	論点の細目 (例)	対応 (例)
(1) 自然災害等	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害（特に被災後の復興）を念頭に、中長期的に取り組むべきことは何か？ 	<ul style="list-style-type: none"> 海外展開推進は産業面だけでなく復興やBCP面で有効ではないか？（ノウハウ貯蓄の冗長化） サプライチェーン機能（食料分野等）のレジリエント性やロバスト性の担保に向けた課題はあるか？ 組織の壁を越えて時限的に英知/情報/資産等をうまく利用できる仕組みは備わっているか？
(2) パンデミック	<ul style="list-style-type: none"> 現下の対応（デジタル庁等）のほか、将来に備えるべきことは何か？ 	

AIの社会実装の促進

国際動向等を踏まえ、AIにより価値を創出するため取り組むべき事項

	論点の細目 (例)	対応 (例)
(1) 分野重点化	<ul style="list-style-type: none"> 現在の重点6分野についてどのように見直すべきか？（分野という切り口を維持するか？） 	<ul style="list-style-type: none"> 分野毎の大きな差違を見極めながら検討（実際にはあまり見受けられないのではないか？ ⇒次頁参照）
(2) 取組手法	<ul style="list-style-type: none"> ハーベスト・ループの形成を、国はどのようにうながすべきか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 「（準公共分野（医療、防災、教育等））×（Human In The Loop）」への着眼等により、国の関わり方が見えないうだろうか？

その他



個別の取組（目標設定）